

「日本における『リア王』」（第6回駒澤大学シェイクスピア・フォーラム、平成7年1月）

佐々木隆、松岡和子、石原孝哉。シンポジウム「日本における『リア王』」の司会兼発題者となり、日本における『リア王』の研究史と上演史を取り上げ、上演を通じた研究方法について発表した。特に、リア王の道化の存在意義や取扱について、実際の上演を例に取り上げた。道化＝コーディリアが台詞や配役の観点から見て、同一役者である可能性についても指摘した。また、黒澤明『乱』における道化の役割についても、比較文化の観点から発表した。道化についても狂言を利用した『乱』についても触れることになった。